

環境経営レポート

(対象期間 2021年9月～2022年8月)



APLIS



作成日 2022年10月28日

株式会社 アプリス

ご挨拶

株式会社アプリスは1962年創業以来、食品パッケージにおけるリーディングカンパニーとして、独自の多層技術を活かした高機能製品を開発・提供し、着実に地歩を固めてまいりました。また、「食」の明日を切り拓くことを自らの使命と考え、その実現の為、日々弛まぬ努力を続けてまいりました。

企業活動は環境にも与える影響が大きい事を受け止め、次頁の環境方針を基に環境活動を展開し、地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割として捉え新たな一步を歩み出しました。

以下、「環境活動レポート」としての取り組みをまとめましたので、私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 アプリス
代表取締役社長
秋元 裕滋

目次

ご挨拶	… P1
1. 環境経営方針	… P2
2. 事業活動の概要	… P3
3. エコアクション 2.1 推進組織図	… P5
4. 環境目標とその実績	… P8
5. 環境活動計画の取組みと評価	… P11
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	… P14
7. 環境関連法規制の遵守	
8. 環境活動の例	… P15

1. 環境経営方針

環境経営方針

< 基本理念 >

私たちは、環境問題への取り組みが、人類共通の課題のひとつと認識し、本業である容器製造業を通じて、人間と自然が共生できる環境の創造と持続的発展が可能な社会造りに貢献いたします。

< 基本方針 >

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げて取組みます。

1. 当社の本業である、食品容器の成形・加飾から物流工程までの各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境負荷の低減に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用資材の削減・廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再使用、再利用の向上に努めます。
 - ③水資源の有効利用の為、節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取組みます。策定して目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直し、継続的な改善に努めます。
3. 環境関連法・規制及びその他要求事項を遵守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
4. 環境方針は、全ての従業員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

改定日 2020年 8月 21日

株式会社 アプリス

代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 事業活動の概要

1. 事業者及び代表者名

株式会社 アプリス
代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 所在地

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-15-5
三鷹高木ビル6階

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 秋元 裕滋
副責任者 : 製造本部長兼関東工場長
副責任者 : 九州工場長

関東工場 環境管理責任者 : 関東工場 関東総務課課長
関東工場 担当 : E A 2 1 事務局 保全課
TEL : 027-269-3831
FAX : 027-269-3834

九州工場・九州営業部 環境管理責任者 : 九州工場 製造部 技術担当課長
九州工場 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0948-23-0238
FAX : 0948-29-8547

本社・関西営業部 環境管理責任者 : 東京総務課課長
本社・関西営業部 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0422-60-3110
FAX : 0422-60-3115

4. 対象範囲

関東工場
群馬県前橋市五代町680-2 芳賀東部工業団地内
九州工場・九州営業部
福岡県飯塚市大字幸袋720-2
本社(営業本部・管理本部)
東京都武蔵野市中町1-15-5 三鷹高木ビル6階
関西営業部
大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル4階

5. レポートの対象期間

2021年9月度～2022年8月度の活動

6. 事業の内容

熱可塑性樹脂一般の真空・圧空成形品の製造販売
インジェクション製品の製造販売

7. 事業規模

関東工場

活動規模	単位	2020年度 (9～8月度)	2021年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個	3748	3815
従業員数	人	562	578
延べ床面積	m ²	49,863	49,863

九州工場

活動規模	単位	2020年度 (9～8月度)	2021年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個	1335	1,457
従業員数	人	190	192
延べ床面積	m ²	14,310	14,310

本社・関西営業部

活動規模	単位	2020年度 (9～8月度)	2021年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個		
従業員数	人	52	54
延べ床面積	m ²	622	622

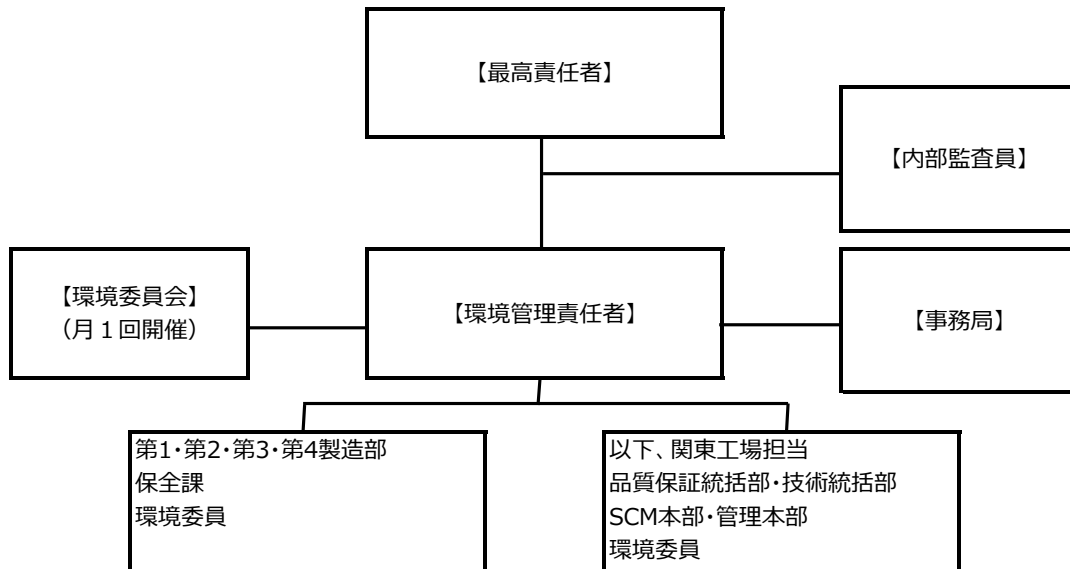
8. 全社の主な環境負荷

	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)	21,598.0	20,713.2	27,008.8
廃棄物排出量(t)	226.1	278.2	369.3
水資源投入量(m ³)	45,282.0	43,624.0	63,303

3. エコアクション21推進組織図（関東工場）

(2014年10月7日 作成)

(2019年2月1日 変更)

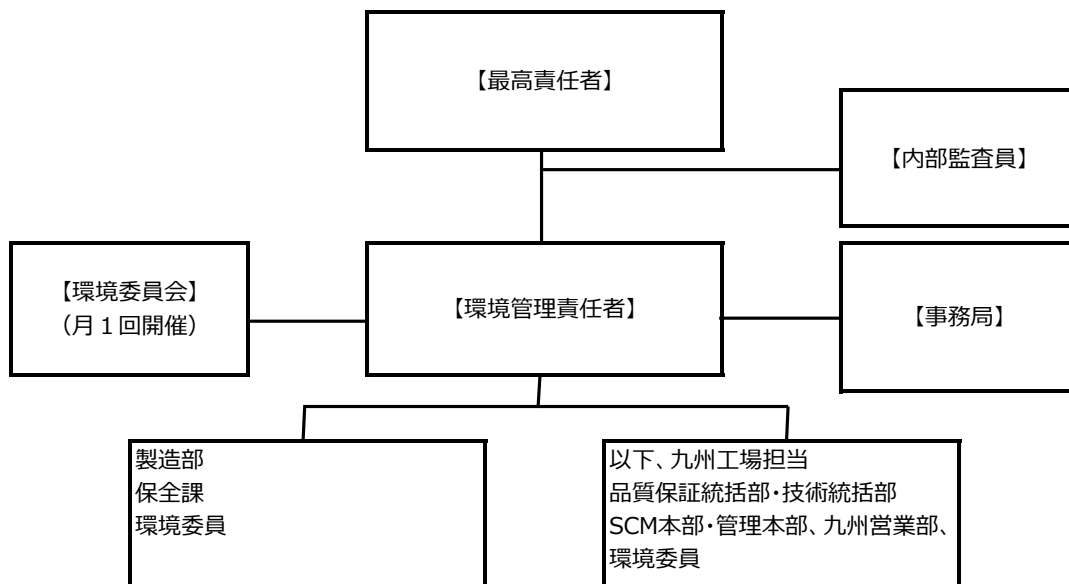


職名	役割
最高責任者	<p>①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。</p> <p>②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。</p> <p>③環境方針を制定する。</p> <p>④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。</p>
環境管理責任者	<p>①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。</p> <p>②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。</p>
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生会議・省エネ 進捗会議と兼ねて実施 する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

3. エコアクション21推進組織図（九州工場）

（2017年8月21日 作成）

（2021年2月16日 変更）

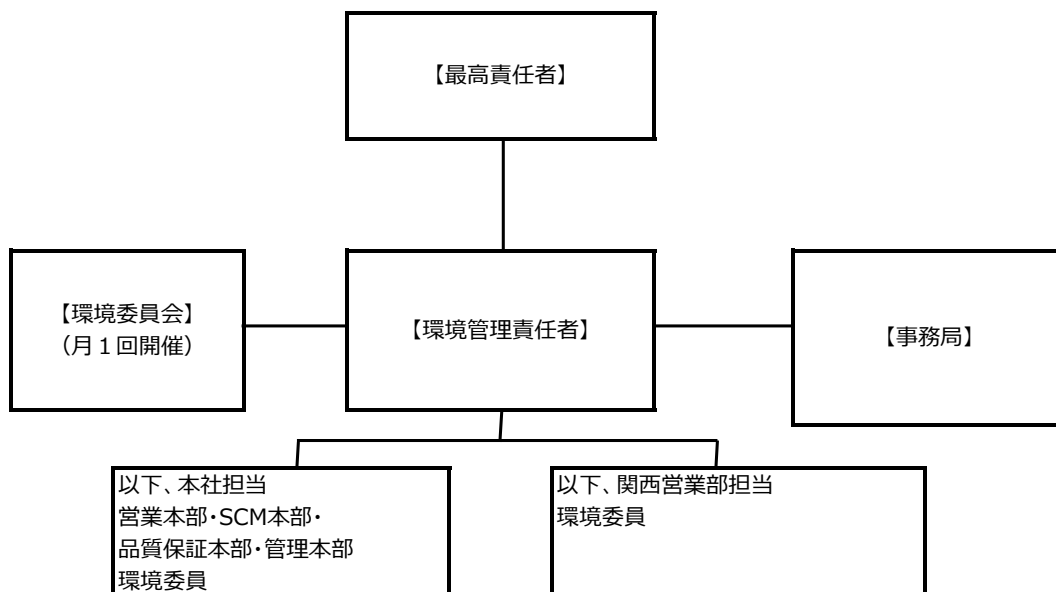


職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生委員会と兼ねて実施する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

3. エコアクション21推進組織図（東京本社・関西営業部）

（2019年12月20日 作成）

（2020年2月7日 更新）



職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会 (安全衛生会議・省エネ 進捗会議と兼ねて実施 する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認められた者は出席することができる。

4. 環境目標とその実績 (関東工場)

関東工場に於ける2020年度(2020/8/21~2021/8/20)の環境負荷実績を把握し、
2021年度~2023年度迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準値	今年度の目標		2年後の目標		3年後の目標		環境活動計画 実施事項
	2020年度	2021年度		2022年度		2023年度		
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
①生産量100万個 当たりの二酸化炭素排 出量の削減(t/百万個)	5.54	20年度実 績に対して 1%削減 5.48	×	5.69	20年度実 績に対して 2%削減 5.43		20年度実 績に対して 3%削減 5.37	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計
②生産量100万個 当たりの廃棄物排出量 の削減 (t/百万個)	0.825	20年度実 績に対して 1%削減 0.817	×	1.022	20年度実 績に対して 2%削減 53.93		20年度実 績に対して 3%削減 52.47	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③生産量100万個 当たりの水資源投入量 の削減(m)	11.7	20年度実 績に対して 1%削減 11.6	△	11.7	20年度実 績に対して 2%削減 11.5		20年度実 績に対して 3%削減 11.3	①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水表示(手洗い場・トイレ) ③クーリングタワーの薬剤管理
④化学物質取扱及び 管理の徹底	—	管理の徹 底	リスクアセ スメントの実 施		管理の徹 底		管理の徹 底	①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③リスクアセスメントの実施
⑤本業に関する目標	—	①標準材 料ロス率以 内②前年 実績より向 上させる	①材料ロ ス× ②ファンク ション率×		①標準材 料ロス率以 内②前年 実績より向 上させる		①標準材 料ロス率以 内②前年 実績より向 上させる	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認

※購入電力の排出係数は、0.455 kg-CO₂/kwhを使用しています

(R2.1.7環境省・経済産業省公表 東京電力エナジーパートナー 調整後排出係数)

4. 環境目標とその実績 (九州工場)

九州工場に於ける2018年度(2018/8/21～2019/8/20)の環境負荷実績を把握し、2019年度～2021年度迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準値	今年度目標・実績		3年後の目標	環境活動計画 実施事項
	2018年度	2021年度		2021年度	
	実績	目標	実績	目標	
①生産量100万個当たりの二酸化炭素排出量の削減(t/百万個)	3.49	2018年度実績に対して3%削減	× 3.55	2018年度実績に対して3%削減	①空調温度適正化・表示 ②DM電力抑制適正化(エアコン電力抑制) ③圧縮エア消費量削減 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計 ⑥No.1キュービクル更新(トップランナー)
②生産量100万個当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万個)	140	2018年度実績に対して3%削減	○ 126	2018年度実績に対して3%削減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③生産量100万個当たりの水資源投入量の削減(m ³)	10.7	2018年度実績に対して3%削減	× 12.5	2018年度実績に対して3%削減	①水道メータの日々確認(漏水早期発見) ②節水啓蒙活動(継続) ③クーリングタワーの薬剤管理(継続) ④クーリングタワー供給水ボールタップ定期交換
④化学物質取扱及び管理の徹底(PRTR制度対象)	—	PRTR制度対象物資使用なし	PRTR制度対象物資使用なし	PRTR制度対象物資使用なし	①取扱い物質の把握 ⇒現状PRTR制度対象物質取扱いなし
⑤本業に関する目標	—	①材料ロス：標準ロス率以下 ②ファンクション率：前年対比で向上を目指す	①材料ロス：成・印・シ(未達) ②ファンクション率：成・印・シ(未達)	①材料ロス：標準ロス率以下 ②ファンクション率：前年対比で向上を目指す	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認

※ 購入電力の二酸化炭素 調整後排出係数は、0.347kg-CO₂/kWhを使用しています
(2018年度・九州電力)

4. 環境目標とその実績（東京本社・関西営業部）

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準値	1年後の目標		今年度目標	3年後の目標	環境活動計画 実施事項
	2020年度	2021年度		2022年度	2023年度	
	実績	目標	実績	目標	目標	
①月間あたり二酸化炭素排出量の削減 (t/月)	149.6	前年比で 1%削減	○ 125.7	前年比で 1%削減	前年比で 1%削減	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計
②月間あたり産業廃棄物排出量の削減 (kg/月)	8,060	前年比で 1%削減	× 9,090	前年比で 1%削減	前年比で 1%削減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③月間あたり水資源投入量の削減(m ³ /月)	202	前年比で 1%削減	× 349	前年比で 1%削減	前年比で 1%削減	①毎月の使用量の確認 ②節水啓蒙活動
④グリーン購入比率の向上(%)	—	購入品リストによるグリーン購入の推進	—	購入品リストによるグリーン購入の推進	購入品リストによるグリーン購入の推進	①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の導入
⑥本業に関する目標	—	業務効率化とその支援	—	業務効率化とその支援	業務効率化とその支援 新素材の検討	①業務効率化とその支援 ②目標達成状況・進捗状況の確認

※ 今年度の購入電力の排出係数は、以下の値を使用しています

本社：0.455kg-CO₂（R2年用・東京電力EP調整後排出係数）

関西：0.334kg-CO₂（R2年用・関西電力調整後排出係数）

5. 環境活動計画の取組みと評価（関東工場）

* 2021年度(2021年9月～2022年8月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：2.7%増加×	<ul style="list-style-type: none"> ・電力及びエア使用量の見える化の推進 ・第二工場印刷ラインUV装置改善 ・第四工場天井裏照明省エネ改造 ・今年度は第一工場から第五工場への生産設備移管による生産効率悪化の影響が大きく、目標を達成できなかった
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・本業部分の稼働効率の向上 ・待機電力の更なる削減 ・UV装置改善の推進等省エネ設備の積極的投資
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：23.9%増加×	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別による資源化の推進 ・成形材材料ロスの削減改善 ・使用済みUPS用鉛蓄電池リサイクルの推進 ・第一工場から第五工場への生産設備移管による生産逼迫により産業廃棄物が大幅に増加した為、目標を達成できなかった
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・生産稼働の安定化を推進 ・第二工場再生室リペレ取得率アップによる売却効率化 ・リサイクル装置能力アップ導入
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：0.2%増加△	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月水道メーターの確認を実施 ・冷却水の薬剤投与による濃度管理を実施 ・第四工場クーリングタワー漏水修理及び再発防止対策を実施 ・前年とほぼ変わらず、目標を達成できなかった
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生産効率アップと節水活動を進める ・工場別水使用量の見える化推進 ・第二工場再生室ホットカット方式導入による水使用量削減
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 『目標』 取扱量の把握 目標の達成状況：○	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクアセスメントの継続 ・トルエン使用及び在庫0
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してトルエン使用を0にする
5. 本業に関する目標 『目標』 目標の達成状況：×	<ul style="list-style-type: none"> ・第一工場から第五工場への生産設備移管による生産効率悪化の影響が大きく、材料ロス、ファンクション率共に目標を達成できなかった
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・第五工場本格稼働1年目となる為、生産効率向上により材料ロスの削減及びファンクション率の向上を図る

5. 環境活動計画の取組みと評価（九州工場）

* 2021年度(2021年9月～2022年8月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2018年度に対し、3%削減 目標達成状況：1.8%増加 ×	・エアコン温度の適正化は各部署で定着 ・No.1キュービクルトランスをトプランナートランスに更新 特に下期は機能性特殊樹脂不足対応で成形・シートともロス増加。生産条件も電力増となる条件のため二酸化炭素排出量増となった。
	次年次への取組内容
	DM電力抑制装置適正化（継続）、シート第一工場受電設備更新（高効率トランスへの更新）、本業の稼働率アップ
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2018年度に対し、3%削減 目標達成状況：9.9%削減 ○	・廃棄物の分別による資源化推進（継続） ・小段ボール分別廃棄による可燃ごみ削減 （※可燃ごみ収集運搬業者変更のため排出袋数×3kg/袋として重量計算）
	次年次への取組内容
	・本業の良品率アップ ・廃棄物分別化による資源化推進
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2018年度に対し、3%削減 目標達成状況：16.7%増加 ×	・水道メーターチェックによる漏水の早期発見（継続） ・一昨年より引き続き、コロナ感染予防としての手洗い増および工場トイレ給水配管破損、洗濯室給水メーター破損による漏水等もあり使用量増加。 ・クーリングタワー供給水ボールタップ定期交換
	次年次への取組内容
	・近年増加傾向にあるので引き続き水使用量データ分析 ・クーリングタワー排水の視える化
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 『目標』 PRTR制度対象物質使用なし 目標の達成状況：○	・PRTR制度対象物質使用なし
	次年次への取組内容
	・PRTR制度対象物質使用なし
5. 本業に関する目標 『目標』 目標の達成状況：×	・成形、印刷、シートとも個別に改善活動実施 材料ロスは、成形・印刷・シートとも目標未達。 ファンクション率も、成形・印刷・シートが目標未達。 機能性特殊樹脂不足対応での材料・時間ロスが大きく影響
	次年次への取組内容
	・機能性特殊樹脂の代替樹脂生産安定化 ・材料ロス削減、ファンクション率改善活動継続実施

5. 環境活動計画の取組みと評価（東京本社・関西営業部）

* 2021年度(2021年9月～2022年8月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：16.0%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン温度の適正化・表示 ・電力量の月次グラフ化 在宅勤務の終了、出社人数増により電力使用量は昨年から増加したものの、自動車から公共交通機関での通勤方法に切り替えたことによりガソリン使用量が減り、結果として全体のCO2排出量は削減。
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン設定温度管理 ・不要時照明OFF等の対応
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：12.8%増加	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物置場の表示作成・分別ルール徹底 ・廃棄物排出量の集計 昨年から引き続き工場への移動機会の減少により、通常は工場で処理を行っていたサンプル・試作品をやむを得ず本社で処分したため排出量は増加した。
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物削減についての啓蒙活動 ・再利用可能なものの活用、什器等の売却対応
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2020年度に対し、1%削減 目標の達成状況：72.8%増加	<ul style="list-style-type: none"> ・月次使用料の確認・グラフ化 ・節水啓蒙活動 出社人数の増加に伴い使用量が増加。総量としてはコロナ前の2019年度と同程度となった。
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・節水啓蒙活動
4. グリーン購入の推進 目標の達成状況：-	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品の調査/グリーン購入品の導入 物品購入時のチェックに加え、消耗品の仕入先を2社追加し、比較検討する対象範囲を拡大した。
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入品の選定・導入
5. 本業に関する目標 『目標』 業務効率化とその支援 目標の達成状況：-	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議のweb開催の定着 ・環境負荷の少ない製品の研究開発と提案
	次年次への取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい労働環境の構築と省エネ策の両立を検討 ・新素材の検討

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

基本方針の取り組み結果および全体評価については以下の通りです。

・二酸化炭素排出量削減

関東工場、九州工場とも若干の目標未達となりました。関東工場では第二工場印刷機改善、第四工場照明電力削減対策工事等の改善策を実施したものの、第一工場から第五工場への生産設備移管による生産効率悪化の影響が大きく、目標未達となりました。九州工場では材料不足の対応で成形・シートともロスが増加。生産条件も消費電力増となる条件のため、CO2排出量が増加しました。本社・関西営業部は在宅勤務の終了、出社人数増加に伴い消費電力は増加しましたが、自動車から公共交通機関を利用した通勤方法へ戻したことによりガソリン使用量が抑制され、CO2排出量も削減されました。

・廃棄物排出量削減

全社として分別ルールの徹底による資源化や3Rの推進を引き続き実施しました。関東工場では材料ロスの削減や廃棄物の資源化率率アップを推進したものの、工場移管作業が長引き廃棄物排出量の増加が見られました。九州工場では製品の材料変更によるロスが増加傾向にありましたが、前年に引き続き廃棄物の分別、資源化を進めたことにより削減目標を達成できました。

・水資源投入量削減

関東工場では第四工場クーリングタワーの漏水修理・再発対策を実施しましたが昨年とほぼ変わらない結果となりました。九州工場では給水管や給水メーター破損等の漏水が多く発生した影響で使用量が増加しました。本社・関西営業部は出社人数増加に伴い使用量が増加しました。全社総量で見ても水道使用量は増加傾向がありますので、引き続きデータ分析・見える化を進めます。

今期においては関東工場第一工場から第五工場への生産設備移管工事が長引き、調整の機会が増大したことに加え、原料である機能性特殊樹脂の世界的な不足への対応によるロスが大きく影響し、生産効率が低下した中での取り組みとなりました。ただ、このような状況下においても大幅に削減目標が未達となったわけではなく、3Rの推進や多くの改善活動が功を奏し、生産量100万個あたりのCO₂排出量は全社前年実績比で0.08tの増加、廃棄物排出量も9kgの増加と、数値で見ると昨年とほぼ同等の水準に抑えることができました。次年度以降も稼働率向上への取り組み、省エネ設備の積極的投資によるCO₂排出量の削減、材料ロスの削減、廃棄物の資源化を中心に改善活動を推進し、本業を通して環境負荷低減に寄与できるよう邁進してまいります。

7. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	対象	届出報告義務許可・記録等	遵守状況
騒音規制法	コップレッサ等	設置届・環境計量証明	○
振動規制法	コップレッサ等	設置届・環境計量証明	○
PRTR法	トルエン	使用排出量の届け出	○
労働安全衛生法	印刷作業場	作業環境測定・作業主任者選任等	○
フロン排出抑制法	空調設備	エアコン点検票	○
工場立地法	緑地面積等	建築確認申請書等	○
消防法	消防用設備等	防火管理者の選任・消防点検等	○
群馬県地球温暖化防止条例	関東工場	排出削減計画・報告書等	○
大気汚染防止法	発電機	設置届・ばい煙測定結果報告書	○
群馬県の生活環境を保全する条例	コップレッサ等	設置届	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	マニフェスト・業者との契約書等	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	関東・九州工場	定期報告・中長期計画書	△

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2022年10月3日の内部監査に於いて環境関連法規遵守の確認をし、環境関連法規への違反は概ねありませんが

九州工場はエネルギー管理士の資格取得中。

尚、関係当局から違反等の指摘は過去5年間ありません。

環境活動の例

■ 廃プラスチックのリサイクル（廃棄物の削減・資源化）

端材のリペレット



不良カップの粉砕



シュリンクラベルの分離



■ 太陽光発電設備

関東工場（450kw）



九州工場（955kw）



太陽光発電量は家庭用発電量の300倍、CO2抑制量は杉の木換算で35,000本/年

■ 構内、駐車場の巡回清掃活動（安全衛生環境会議で月例報告）

■ 使用電力量の月別計測と分析

■ 新入社員教育（4月）

■ エコ検定受検支援（累計合格者 40名）

■ エコアクション21認証取得（2016年～）

■ 「株式会社アールプラスジャパン」への資本参加（2020年～）

■ 「CLOMA」会員（2021年～）

■ 環境配慮容器の開発

- ・植物由来のバイオマスプラスチック使用
- ・バイオスマーク取得
- ・プラスチックと紙器の複合素材
- ・バイオマスインクの使用 など